

ろんぶ^んぶん

2018年10月11日放送：猫

論文①「近世における都市-農村・日本-世界の文化的交差 <近代>を準備した江戸の猫ブーム」

著者：遠藤薫（学習院大学政治学科）

学習院大学 法学会雑誌 53巻 1号 2017年9月



論文著者：遠藤薫 教授



平安時代の絵巻物から江戸時代の浮世絵まで、猫が描かれた様々な絵を調査。

結果、平安時代の猫は首ひもを着けて飼われているのに対し、江戸時代の猫は放し飼いにされていることが分かった。さらに、猫の放し飼いのきっかけともなる社会背景も判明した。

論文②「Use of incidentally encoded memory from a single experience in cats」

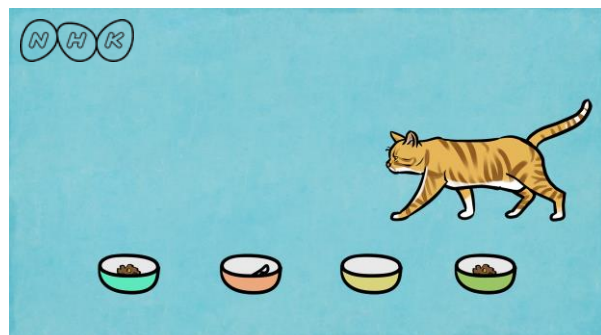
(日本語訳：ネコは一度きりの経験を通して偶発的に記録された記憶を利用できる)

著者：高木佐保 (京都大学大学院 心理学研究室)

Behavioural Processes 141 (2017) 267-272



論文著者：高木佐保 博士研究員



一般家庭や猫カフェを訪問し40匹以上の飼い猫を対象に、おやつを用いた記憶の実験を実施。その結果、猫は「どの皿に何が入っていたか」を覚えているということが分かり、猫には思い出があると結論付けた。

左側：論文プレゼンターの笑い飯・哲夫さん